



進取

令和2年9月18日発行

阿久根市立阿久根小学校
25学級 児童数449名

熱い気持ちと笑顔

～行事を通してさらなる成長を～

校長 秦 明夫

9月も中旬となり、吹く風に秋の気配を感じる時節となりました。

2学期の始業式もコロナの関係で校内放送を使って行いましたが、その中で水泳の池江璃花子選手の話をしました。オリンピックでメダル獲得を期待されていた池江選手が、突然白血病を発症します。多くの人が、もちろん私もですが、「命をつなげるのが精一杯で水泳選手として復活するのは難しいだろう。」とっていました。ところが、池江選手は、8月29日に東京で行われた水泳の大会に出場し、見事な泳ぎを見せます。本当に強い人とはこのような人のことをいうのだろうと私自身強く心を打たれました。子供たちには、「絶対病気に負けないぞ、必ずオリンピックに出るぞという強い気持ちがあったからこそ復活できたと思います」と話しました。きついことや困難なことを乗り越える力を子供たちにも育てていきたいと思います。

さて、子供たちは今27日にせまった運動会に向けて練習に汗を流しています。体育の時間の練習の他、応援団は昼休みも使ってがんばっています。

「コロナに負けるな阿小の子！熱い気持ちで勝負に挑め！一致団結 笑顔で笑おう」これが子供たちの考えた運動会のスローガンです。今回は、コロナ対策のため開催時間の短縮や観覧者の制限等をしての実施となりますが、与えられた環境の中で子供たちには全力を出し切ってほしいと思います。池江選手のように何事にも負けない熱い気持ちで取り組み、運動会を盛り上げてくれることを期待しています。一致団結して臨むことで、みんなが達成感を感じ笑顔になれると思います。

秋季大運動会が子供たちだけでなく、多くの方々にとってすばらしいものとなるよう取り組んでまいりたいと思います。ご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

～子供の人権プロジェクト推進校～

子供に人権教育を行う教員がまず人権について深く学ぶことが重要です。8月21日(金)、県教育委員会から講師を招いて、本校の職員で研修会を行いました。

アクティビティを通してお互いを知り交流を深める取組についても研修しました。今後も子供一人一人のよさを認め、励まし、伸ばせるように取り組んでいきたいと考えます。



～いじめ問題を考える週間(9月1日～7日)～

各学級で道徳や学級活動の時間等を使っていじめ問題について考える取組を行いました。

「一歩ずつでも前へ」

この言葉には、どのようなつらいことがあっても、悩みがあっても、しっかり前を向いて頑張ってほしいという強い思いを込めています。

私は、小学校時代に「いやがらせ」を受けた経験があります。50年経った今でも、この出来事をはっきり覚えています。(詳細は別紙参照)
児童生徒のみなさん、「一度発した言葉は消えない」「いやがらせを受けた人の気持ちは、その人にしかわからない。」ということをしっかり理解してください。

いじめは、人間として絶対に許されない、人権に関わる重大な問題であり、すべての子供に関するものです。いじめはどこでも起こる可能性があるという考えのもと、一人一人がいじめを自分のこととして捉え、「いじめを無くすためには、どのようなことに気を付けるべきか。どのようなことに取り組むべきか。」について、真剣に考えて行動に移してください。

☆ 中野 正弘教育長からのメッセージです。
ご家庭でぜひ一緒に考えてみてください。